

(別紙2) 平成 22 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4090800030		
法人名	有限会社 竹松		
事業所名	グループホーム 楽園		
所在地	福岡市東区志賀島1735 - 153		
自己評価作成日	平成22年5月3日	評価結果確定日	平成22年7月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな環境の下、総ての機能が低下しない様、毎日の散歩・畑仕事・ドライブ等を満喫してもらっています。又出来る事はやっていただくというスタンスで自立支援を心がけ、各自役割を持ち毎日生き生きとその人らしく尊厳を持って生活していただける様、「介護は心」をモットーに、常に相手の立場に立って同じ目線での心と心のコミュニケーションを実践しています。
当施設「楽園」は、家庭であり、私たちは家族なのです。
今年は、「一人一人に寄り添っていこう」を目標にしています。

事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会 介護サービス評価センターふくおか		
所在地	福岡市中央区荒戸3丁目3番39号 福岡市市民福祉プラザ		
訪問調査日	平成22年5月14日		

能古島や福岡ドームが間近に見える志賀島に4年前に開設された事業所が「楽園」である。代表が地域で高齢者支援に携わっていた経歴もあり、開設当初から地域住民の理解と協力のもと、活発な地域交流がなされている。ホームでは、利用者の自立支援をめざし、毎日の散歩や調理、家事等を一緒に楽しんでいる。また、受診には全面的に家族が協力し、利用者や家族の外出する機会が確保されている。多忙な家族も、時間を工面しホームへ赴くと、利用者の顔が花のようにほころぶという。元気の秘訣は、素晴らしい自然、毎日の役割や運動、周りで支える職員や地域、家族の愛情だということを実感できる。この素晴らしい環境と繋がりを活かして、益々の発展が期待できる事業所である。

自己評価および外部評価票

(セル内の改行は、(Alt+Enter)です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員全員が共有している。研修生の方から、実践の評価を頂く事ができている。地域にも出向くようにしているが、地域からも来て頂くよう働きかけを行っている。	開設に伴い、関係者で話し合った内容を理念としている。「心」ある介護を目指し、利用者や寄り添いながら、地域の中での生活、地域とのかかわりの継続を重視し、支援していく方針を掲げている。理念を具体化する「対応7か条」や毎年の目標を立て実践に努めている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	志賀島の各行事、小学校の行事、保育園、幼稚園の行事等に積極的に参加させて頂いており、利用者さんも楽しく過ごしておられます。又、地域の方の協力で畑も作り、収穫もしている。	流鍋馬や歩射祭等、志賀島の伝統行事をはじめ、小学校や幼稚園の行事等、毎月何らかの地域行事に参加している。また、ホーム行事への地域ボランティアや住民の参加、地域清掃や防災訓練等、日常的にも積極的な地域交流が見られた。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を活用して、認知症への理解をして頂く為に資料を配布したり、講習会への案内等を行っている。地域行事のお手伝いには、管理者が行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者の日常生活の様子や月間行事等は、「楽園だより」にお知らせしているので、良く理解出来ると評価をいただいている。地域より「ポスト設置」の要望があり、すぐに設置した。	家族や行政、自治協議会や公民館長、民生委員や老人クラブ会長等の参加のもと2ヵ月毎に開催している。会議では、事業所と利用者の近況報告、研修活動の紹介、懸案事項の討議、地域包括支援センター職員への質疑応答等、活発な情報や意見交換がなされている。	
5	4	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困難事例に関しては、介護保険課の助言をもらう。いきいきセンターふくおかとは情報の交換を行っている。	運営推進会議への地域包括支援センター職員の参加を通じて、行政との連絡・連携を図る取組みがある。また、市主催の研修会への参加や運営上の疑問点などについての相談等、日常的に行政との連携を図る取組みがある。	
6	5	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	以前は、玄関の施錠をやむを得なくしていたが、今はしていない。自由に行動してもらえ様見守り、寄り添う介護職に力をいれている。	毎年の研修計画に位置付け、言葉かけや介助において、行動制限や身体拘束にあたるか否かについて話し合う機会を設け、職員全体で啓発する機会を確保している。この過程を経て、ヘッドギア解除等の事例がみられた。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法の研修を受け、内部研修でも生かして職員にも伝達している。4月のミーティングでも園内研修で伝達する予定。事業所内で虐待を聞いたり、見たりした時は直ぐに報告するように指導している。今まで報告もなく、防止できている。		
8	6	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	ミーティングにて、内部研修として取り組んでいる。後見人制度は1人利用されている。その人らしく暮らして頂ける様に、施設内でももちろんの事、地域にも働きかけ支援している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の概要等については、外部研修の受講や職員の理解を深めるための勉強会を行っている。利用者、家族には契約時に制度の説明を行い、必要に応じて地域住民にも情報提供を行っている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の参加もあることから、制度の活用等について、地域住民や家族、職員にむけても、より詳細な情報提供の機会が確保できるものと思われます。今後の取組みを期待します。
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は重要事項説明及び、契約書の説明を充分に行い、質問に関しては丁寧にお答えし、納得した上で捺印してもらう。		
10	7	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で利用者や家族の感想や要望を言って頂く場があり、運営に関する意見が出た事には反映できるようにしている。意見箱を玄関に設置し、自由に苦情・要望・意見がいただける様にしている。	運営推進会議時や面会時等を利用して、意見や思いの表出に努めている。意見や苦情については、内容に応じてその場での回答や、職員会議で検討した後に回答するなどの取組みがある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングの中での職員の意見、及び個人面談の中ででの要望等を聞き、反映させている。	日常的な会話の中でも、意見やアイデアが言いやすい雰囲気作りに配慮している。毎月の職員会議や適宜の個人面談にて、意見や提案を聞き、運営に反映させている。この過程を経て、環境整備等についての改善事例が見られた。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員あつての仕事だと痛感しているの、楽しくやりがいをもって長く勤めてもらえる様、企業努力をしている。 個人面談も密にして職員とのコミュニケーションをとっている。		
13	9	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	希望があればどなたでも面接をさせていただき、無資格の方でも採用している。職員に関しては日々自己研鑽し目的を持って研修、施設見学等をする様働きかけている。	職員採用においては、年齢や性別、経験の有無等の制限は設けず、ホーム理念である「介護は心」に共感できること、協調性がある事等を重視し、3ヶ月の試用期間を経て、事業所、採用者の双方が合意の上で本採用としている。就職後は、資格取得や外部研修の参加、自己実現のための勤務調整等に努めている。	
14	10	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	研修に参加してもらう。 入居者に対し、人格を尊重した言動・行動をしてもらうよう伝えている。 又、入居者の話をじっくり傾聴し、個々のニーズにきめ細かく対応する様にしている。	地域の人権学習会へ管理者、職員が交代で参加している。加えて、事業所内でも受講報告会を開催するなど、高齢者や福祉に限らず、広義においての人権教育や啓発活動に取り組んでいる。	
15		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の様子から状況を把握できるので、サインが出ていると思えばすぐに話合う機会を設け、モチベーションが下がらない様に働きかけている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	GH協議会に加入しているので、ブロックの集まりには参加してもらい、情報交換、勉強会、訪問等をしている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時充分に時間をとり、生活歴や趣味・日課にされていた事、又ここでの要望や不安に思う事等をお聞きして、安心して頂ける様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に十分に時間をとって入居希望に至る経緯、不安な点や要望、又は困っておられた事等をお聞きして関係作りに努めている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分に本人と家族から情報を頂き、プランに反映させている。 希望されるサービス等は極力参加して頂いている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者から、漬物の漬け方や料理の味付けの方法を教えて頂いたり、一生懸命に働いてこられた様子等聞かせていただき、逆に励ましてもらったりと、共に支えあう関係がとれている。		
21		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは随時連絡を取り、家族関係もふまえた上で疎遠にならない様、又利用者が安心できる様働きかけを行う(面会や電話で話すなど)		
22	11	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族・知人様の面会、外出等の推進、必要時にはご家族に協力を頂いて対応している。 特に盆・正月には仏様・お墓参りを家族にお願いしている。	知人や友人、家族との絆を重視し、墓参りや冠婚葬祭等の同行外出を積極的に支援している。特に、病院受診は、利用者と家族の定期的な外出の機会ととらえ、全面的に家族に協力をお願いしている。	
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の手伝い・レク等取り組んでいただき、苦手で参加されない方には利用者各々から声を掛け合ってもらい、加わるようお願いしている。又、個々に合った活動を職員も一緒に行っている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前ご利用されて退去された方に対しても、相談・状況伺い等行っている。 退去された後もご家族同伴で来園されたり、交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の個性に応じて「その人らしい」生活を実施している。主体性を尊重した支援を行っている。 本人の話に耳を傾け、本人が納得されるケアをしている。	利用前に、家族や関係者からの情報収集を行っている。入居後は日々のかかわりを通じて、利用者の思いや希望の把握に努め、記録し、職員全体への周知や介護計画書に反映し、「その人らしい」暮らしができるように支援している。	現在、頻繁にかファレンスの機会を持ち、利用者の情報を個別ノートに自由記述しておられます。利用者毎の情報量の標準化や分類、開示や支援への反映も含めて、様式の整備や充実に取り組みられることを期待します。
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時や面会時等に情報収集したり、ご家族にケアカンファレンスに参加して頂いて、利用者の情報収集に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日生活していく上で、日勤帯での勤務者、夜勤者との申し送り等での伝達確認、生活の上での観察・対応等でレベル変化、心身状態等細めな把握に努めている。		
28	13	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族には常に現状を報告している。又、担当者会議では、ご家族の都合がつけば参加して頂きご本人も参加してもらっている。尚、ご家族の都合がつかない時は電話でお聞きしている。	担当職員と計画作成担当者が、本人の希望や家族の意向等をまとめ、ケアカンファレンスにて職員全体で協議し、利用者本位の介護計画を作成している。毎月のかファレンスにて、モニタリングや支援手順の確認を行い、定期的に(約3ヵ月毎)に評価・見直しを行っている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々記録は行っており、職員間で情報を共有できる様にしている。 ミーティングや職員の連絡ノート等を利用しながら、より情報を共有し、実践し計画の見直しができる様にしている。		
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ニーズに合った対応が出来る様に取り組み、本人が安心される様に実行する。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館に本を借りに行ったり、幼稚園・保育園とのふれあいや、地域行事への参加、又地域での買い物等、本人が力を発揮しながら安全に暮らしを楽しむ事が出来る様に支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32	14	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	皆さんがかかりつけ医を持っておられ、医療機関の相談や希望等ある時は相談出来るようにしている。必要時にはスタッフもご家族と一緒に受診に付き添ったり、状況報告書をかかりつけ医に提供し、安心して受診される様支援している。	契約時に医療について説明し、利用者・家族が主治医を選択している。毎月の定期往診、緊急時は協力医が対応し、病院受診は家族対応で、必要に応じて職員が同行している。また、認知症や精神科の受診等についても、専門医と連携し適切に支援している。	
33		看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々利用者さんの体調管理と一緒に連携して行っている。変化がある時には報告し観察してもらい、指示を受けて実行している。又、受診の必要性も指示を受け、支援している。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院前に医療機関との事前情報交換も実施。入院時はスタッフも付き添い、医療機関との情報交換を行い、利用者にも安心して頂ける様、支援している。又、入院中はお見舞いに行き、経過を把握し情報交換を行っている。		
35	15	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居契約時に重度化や終末期の対応について説明し、承諾を得ている。本人・家族の希望があれば、家族・医師・諸機関との連携を密にして、ホームで出来る限りの対応をしていく方針である。	事業所で対応できる支援内容や、段階的に利用者、家族の意向を確認し、記録していく事等の支援手順が具体的に記載された重度化に関する指針を作成し、契約時に説明した上で同意書を取り交し、関係者で情報を共有し支援している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や応急手当等に関しては、マニュアルを作り研修を行い、その都度看護師に指導してもらいながら力をつけている。		
37	16	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火・避難訓練は2回/年行っている。地域での訓練にも参加している。火災については、当施設から火事を出さない様に伝達を行っている。	同敷地内の併設事業所と合同で年2回の避難訓練を実施している。また、地域の非常災害対策としての合同訓練に参加し、地域住民と共に避難訓練や災害復旧等を体験するなど地域と協力しながらの災害対策に取り組んでいる。	
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	理念に基づき、対応7カ条を念頭に置き、人格を尊重して誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。管理者は職員に対し、人権を尊重した言動・行動をとる様、常にお願している。	「対応7か条」には守秘義務の他にも、訪室の際の言葉かけや、抑圧的な言葉遣いの禁止等を明記してあり、プライバシーや尊厳を守る対応が習慣化されている。個人情報に関する記録等は事務所にて適切に管理されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人の健康面や精神面で配慮を行いながら、日常生活のすべての活動に参加を促すが、ご本人の思いや希望を大事にし、自己決定して頂いている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	したい事等の希望がある場合は、ご本人及び他の利用者さんの安全面も考慮し、出来るだけ希望に沿う様に支援している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧・肌ケア等、昔からされている方には、声掛けして促している。 その他の方にも、ボランティアさんに来てもらいお化粧・顔のマッサージをしてもらったりしている。		
42	18	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べたいものがあれば極力対応している。 食事の準備・後片付けは体調面を考慮の上、手伝ってもらっている。この時期、土筆つわ・よもぎを取りに行き、皆さんで整理し即料理してもらいます。床漬け・漬物も漬けてもらっています。	栄養バランスや利用者の好み等を取り入れ、買物準備、調理、配膳等を職員と利用者が協力して行っている。利用者と同じテーブルを囲み食事を楽しむ様子が伺えた。また、職員の食事代を助成し、利用者と職員が同じ食事をとれるように配慮している。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分摂取量が少ない方は、表を作成しチェックしている。 食事量については、体重が増加している方や糖尿病等の疾病がある方々はある程度調整している。		
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔内に問題なく、自力で歯磨きが出来る方は、声かけ・見守りで対応している。 歯科医からの指示がある方は指示に従い、介助が必要な方は仕上げ磨きや義歯洗浄の支援を行っている。		
45	19	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を使用し、排泄パターンを参考にしながら声かけ・誘導を行い、トイレでの排泄を促して支援している。 最終的には「オムツはずし」を目標にしています。	利用者毎の排泄パターンや介助方法も手順書を作成し、介護計画書に反映させ自立にむけて支援している。利用者間の尊厳やプライバシーにも配慮しながら個別対応を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バナナ・ヨーグルト・食物繊維等をほぼ毎日食べてもらう。 毎日ラジオ体操を行い、排便困難な方には腹部マッサージを行っている。		
47	20	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴日は一応決まっているが、ご本人の要望を受け入れている。 月～土曜日まで毎日ゆっくり入浴してもらえます。保湿の為、入浴剤を使用し、温泉気分を味わってもらっています。	毎日入浴できるように準備し、利用者の希望に沿って支援している。入浴を好まれない方にも、週2、3回の入浴を勧め、タイミングを見計らった声掛けや、清拭、シャワー浴、入浴剤を使用する等工夫しながら、定期的な清潔保持の機会を確保している。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・就床時間を決めずにお一人お一人のペースに合わせ、体調がすぐれない時等は自由に休んでもらい、安心して頂けるように支援している。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ファイルを作成し、お一人お一人がどんな薬を飲まれているか直ぐに確認出来る様になっている。薬の変更があればその変化を記録している。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ご本人に合わせたプランを作成し、気分転換の支援を行っている。		
51	21	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ほぼ毎日、希望者の方は戸外に散歩に出かける。それ以外にも帰宅願望の方にはマンツーマンで対応。又、バスハイク・買い物・外食等、希望をお聞きして支援対応している。	散歩は日課として毎日行っている。ドライブや野球観戦、毎月の行事や外食など、定期的及び随時戸外に外出する取組みがある。また、美容室や喫茶店など、利用者個々の希望や状況に合わせて家族と協力して外出支援を行っている。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望される方には、個別に所持してもらっているが、現在お金を管理する事が難しい方が多く、園で「預かり金」として対応中。バスハイク等で買い物される場合、必要に応じて持って頂き見守り・介助して使用して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話番号とか、かけ方がわからない場合、スタッフが手助けし、ご家族とお話ができる様に対応している。 文字が書ける方には、一筆書いてもらっている。		
54	22	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関他共有スペース等のいたる所に季節の花を飾り、開閉式の天窓等には光調整の為にブラインド設置や、脱衣所の竹製の床等、居心地の良い空間づくりに努めている。 又、トイレについては常に清潔を保っている。	2階のリビングは、風光明媚な景色が眺める開放的な空間となっており、ソファや和室からでも自然が楽しめる様に工夫されている。また、キッチンや事務スペースがリビングを囲む造りとなっており、顔を合わせながら、見守りや声かけができる、温かい雰囲気のある茶の間となっていた。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	いつも座りなれた場所で過ごしてもらい、サロンでは近くにソファを設置して、利用者同士での語りも自由に出来ている。		
56	23	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各人に馴染みの家具・調度品・写真立て・ぬいぐるみ・本・位牌等を持ち込んでもらい、居心地良く安心して生活していただける様に努めている。	居室は、洗面台、クローゼットが備え付けられており、木目調の温もりを感じる造りとなっている。利用者・家族が相談して寝具や調度品、写真や仏具等が持ち込まれており、それぞれが、その人らしく快適に過ごす空間として整備されていた。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	掃除をしたり食事作りをされている所では、常に見守りが出来るような体制作りをしている。		

サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	1. ほぼ全ての利用者の	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,21)	1. ほぼ全ての家族と
		2. 利用者の2/3くらいの			2. 家族の2/3くらいと
		3. 利用者の1/3くらいの			3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんど掴んでいない			4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	1. 毎日ある	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	1. ほぼ毎日のように
		2. 数日に1回程度ある			2. 数日に1回程度
		3. たまにある			3. たまに
		4. ほとんどない			4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	1. ほぼ全ての利用者が	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 少しずつ増えている
		3. 利用者の1/3くらいが			3. あまり増えていない
		4. ほとんどいない			4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 職員の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	1. ほぼ全ての利用者が	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	1. ほぼ全ての利用者が	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が
		2. 利用者の2/3くらいが			2. 家族等の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが			3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない			4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	1. ほぼ全ての利用者が			
		2. 利用者の2/3くらいが			
		3. 利用者の1/3くらいが			
		4. ほとんどいない			